学校通信11月

自由が丘東小だより

第7号
令和8年10月30日

三木市立自由が丘東小学校

自分で考え、自分で決めて、一歩を踏み出す

子どもたちに身に付けてほしい力の一つに、「主体性」があります。

主体性とは、自分で考え、判断し、自ら進んで行動する力です。

誰かに言われたことをその通りに行うだけでなく、「どうしたらよいだろう」「自分には何ができるだろう」「何をすればよいだろう」と考え、自分なりに答えを見つけて行動することが、主体性を育んでいきます。

人から言われなくても自分から行動する「自主性」と似ていますが、少し意味が違います。

主体性を育てるうえで大切にしたいのが、「自己決定」の経験です。

例えば、学習の進め方を考える、係活動の方法を工夫する、友達との意見の違いをどう乗り越えるか考えるなど、学校生活には自分で考え、選び、決める場面がたくさんあります。

自分で決めたことには責任が生まれますが、同時に、自分の考えが生かされたという喜びや、最後までやり遂げたという達成感も生まれます。

こうした経験の積み重ねが、自分への自信を育み、次の行動への意欲につながっていきます。

もちろん、自分で考えて決めたことが、いつもうまくいくとは限りません。

迷ったり、失敗したり、思いどおりにならなかったりすることもあるでしょう。

しかし、そのようなときこそ、「なぜうまくいかなかったのだろう」「次はどうすればよいだろう」と振り返り、考えることが大切です。

大人がすぐに答えを教えたり、先回りして解決したり失敗しないようにするのではなく、子どもが自分で考える時間をもち、必要なときには周囲に相談しながら、自分なりの答えを見つけていく、その過程を温かく見守り、支えていくことが、子どもの成長につながるのではないでしょうか。



また、主体性は、自分の思いだけで行動することではありません。

自分の考えをもちながら、友達の意見にも耳を傾け、互いのよさを認め合い、よりよい方法を一緒に考えることも大切です。

自分で決めることと、周囲と協力すること、その両方を経験することで、子どもたちは自分も相手も大切にしながら行動する力を身に付けていきます。

学校では、子どもたち一人一人の思いや考えを大切にし、自分で選択したり、意見を伝えたり、挑戦したりできる場面を意識的につくっていきます。

そして結果だけでなく、自分なりに考え決め行動しようとした過程、努力した過程も認め、励まします。

5年生の自然学校では今年も、4泊5日間、子どもたちが「主体性」を発揮する姿がたくさん見られました。

みんながお茶を入れやすいようにと大きな大きなジャグからポットにお茶を移し替えたり、掃除時間が残っているからと予定にはなかった場所も掃除したり、野外炊事・冒険プログラム・キャンプファイヤーのスタンツ等でチームワークを発揮したり、意見の食い違いを何とかまとめて新たな力にしたり。

今年度1学期の始業式でも自然学校の退所式でも、「みんなの学校をみんなで創ってほしい」という思いを伝えたことが現実になっていきそう、そんな力を子どもたちは持っていると感じ、とても嬉しかったです。

ご家庭でも、子どもが自分で考えて決める機会を大切にしていただければと思います。

「今日は何から始めようか」「どうしたらもっとよくなるかな」と問いかけたり、子どもの考えを最後まで聞いたりすることが、自分で考える力を育てるきっかけになります。

子どもたちが「自分で考えてよかった」「自分で決めて行動できた」という実感を積み重ね、自信をもって未来へ歩んでいけるよう、学校と家庭が手を携えながら、一人一人の成長を支えていきたいです。

10月を終え、今年度の折り返しになりました。引き続きよろしくお願いいたします。

学校長